４．各部局・特別委員会活動報告

（１）事業企画部

Ａ．概要

ア．引き続き指導者研修会の運営を担当したほか、理事会等の会議運営を担った。また、地域団体長会議についても、企画や進行・運営を行った。また、地域別に開催された福祉大会において、要望事項のとりまとめや担当者の振り分けなどを行った。

イ．駅ホームからの転落事故に対して、当事者として何ができるかを考えるための勉強会を、講師を招いて開催した。

ウ．昨年度に引き続き、協力員勉強会を開催した。理事以外で各部局の活動に協力している方を対象に実施し、本会が掲げるトータルプランについて学んでいただくとともに、入会して気づいたことや不明な内容について質問・意見などを出していただくことができた。役員の後継者不足や地域団体とのかかわりの希薄化が指摘される中にあって、気軽に参加でき個人が臆せず発言できる、このような場の設定が一層求められている。

エ．正副会長や他の部局と連携しながら、横断的な課題への取り組みを引き続き行った。

オ．障害者権利条約の批准と完全実施を目指す京都実行委員会に委員を派遣し、視覚障害当事者としての意見の反映に努めるとともに、フォーラム等への参加呼びかけを行った。

Ｂ．会議

部会　　１０回

（２）地域支援部

　　Ａ．概要

　ア．組織的には、会長を筆頭に副会長で地域別に担当を分担し、地域支援部の理事及び各地域団体長並びに、南部においては南部アイセンター長との連携で運営した。

　イ．年間の主たる活動は、昨年度から開始した地域別の福祉大会と白杖安全デー企画を中心に運営し、それぞれの地域別の団体長会議で準備・企画した。

　ウ．合同の地域団体長会議及び地域支援部会年１回、各地域別の団体長会議を適宜開催した。

　エ．地域支援部担当理事が地域団体の支援にどのように役割を発揮するかが課題となっている。そうした中で、北部地域において、活動困難な地域団体に対して、相談・支援等を具体的に分担して取り組みを実践できたことは、今後の地域支援の在り方として、新たな方向性を示すものであった。

　　Ｂ．府内北部地域

　ア．地域団体長と北部担当の地域支援部員との合同会議を３回開催した。

　イ．北部地域対策検討委員会の結論を受け継ぎ、２０１８年度当初には福知山市から福知山市総合福祉会館２階の１室の使用許可を得て、９月２２日に北部拠点準備委員会を立ちあげた。委員会を３回開催した。

　ウ．１０月２０日、宮津市で開催された白杖安全デー北部集会において、企画や当日の準備について支援した。

　エ．北部地域福祉大会を３月２日、綾部市で開催した。午前は、「インクルーシブな地域公共交通の推進に向けて」をテーマに、交通問題についての学習会を開催した。午後は、各地域団体から提出された要望事項の検討等を行った。

　オ．３月２８日、２０２０年度当初に竣工予定の北部地域拠点設置に向けて、京都府に対し、「視覚障害者のための府内北部拠点施設設置に伴う要望書」を、本会会長と北部拠点準備委員長の連名で提出した。

　　Ｃ．府内南部地域

　ア．南部アイセンターは開設から３年を経過した。見学件数も増え、各種企画事業を始め、相談、研修・訓練、交流、啓発広報の重要な南部の拠点として存在感を発揮するようになった。また、防災、最新情報機器の講習会や、地域の眼科医を迎えての研修会などを企画し、企画内容の幅にも広がりを見せた。

　イ．宇治、城陽、京田辺などが取り組んだ「近鉄駅員無人化問題」についても、かつてない盛り上がりを見せ、「鉄道駅の安全対策」の具体化に向けた対外的な運動の広がりを支援した。

　ウ．木津川市で開催された白杖安全デーは、相楽会をはじめとする地元地域の奮闘と木津川市役所及び南部各団体の支援により、成功裏に終えることができた。

　エ．３月３日に開催された南部地域福祉大会は、南部アイセンターで開催し、第１部で「情報バリアフリー」の課題について、点訳、音訳ボランティアと共に学習する場を持った。第２部では、南部各地域団体からの要望事項やボランティアサークルの活動紹介等が行われ、広く交流することができた。

　オ．臨時も含めて、地域団体長及び地域支援理事・アイセンター運営委員合同会議を延べ５回開催し、アイセンター運営委員会議を４回開催した。とりわけ、次期センター長問題についての検討を重ね、年度末になってやっと次年度からの運営体制が整った。

　カ．成果

　　ａ．相談、訓練件数が増大し、拠点の活用が大いに広がり定着した。

　　ｂ．京都ライトハウスが行う府内南部の生活訓練や、京都視覚障害者支援センターが行う府巡回相談事業などにおいて、定点機能を有効に発揮し、それぞれの委託事業に大きく貢献することができた。

　キ．今後の課題

　　ａ．南部地域団体の組織強化と、拠点を支える地域団体の役割の強化

　　ｂ．南部アイセンターの運営を担うスタッフの後継者問題

　　Ｄ．京都市内地域

　ア．市内担当の地域支援部員と地域団体長との合同会議を年２回開催し、市内地域での会員を増やすための取り組みや後継者問題などについて検討した。

　イ．１２月２３日に開催された白杖安全デー京都府内中部集会は、実行委員会に山科視協から役員を出すという形で内容等検討。「交通局クイズ大会」では、京都市交通局のご協力も得て、無事終了することができた。

　ウ．３月１７日、京都市内地域福祉大会を開催した。午前は「聞いて、触って、私たちにとっての最新機器」というテーマで、ＡＩ視覚支援デバイス、および昨年発売されたばかりの視覚障害者用ポータブルレコーダーについて説明をするとともに、昼休憩では希望者に個別体験していただいた。午後は例年通り各地域団体・賛助団体から寄せられた要望事項について検討した。

　エ．本会のみの入会者が増加している原因を明らかにするために、地域団体に入会していない会員に対してアンケートを実施し、その質問項目について整理した。

　オ．活動が難しくなってきている地域団体に対して、その地域の役員と懇談の場を設けた。

（３）互助部

Ａ．新年のつどいの開催をはじめ、全国盲人福祉大会参加の旅行企画など、会員・役員の互助活動の推進に努力した。

Ｂ．４年前から行っている、会員とのコミュニケーションを図るために一定の年代の人を選んで電話をかけ対話する取り組みが、今年度は実施することができなかった。

Ｃ．会議

部会　　４回

（４）職業部

　　Ａ．第２９回視覚障害者就労問題懇談会

　　　　３月８日、京都ライトハウスにて開催。視覚障害者の就労問題に関係する行政機関等の参加を得、昨年度に引き続き、一般職の就労について集中的に討議した。特に京都ライトハウス鳥居寮と本会相談支援係から具体的な支援に基づく問題提起を受け、関係機関の有機的な連携のあり方について探った。

Ｂ．「目の見えない人・見えにくい人の仕事サロン」（第２４回～第２７回）

　　賛助団体と共催で年４回開催し、参加者と共に課題を共有した。また、「第２７回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会」でのポスター発表に先立ち、「仕事サロン」のチラシをリメイクした。今年度の「仕事サロン」の特徴は以下の諸点である。

　ア．元保育士の全盲女性やＩＴ関係で起業しているロービジョンの男性にご自身の仕事との向き合い方、周囲の人たちとの関わり方などについてお話しいただき、多様な働き方の可能性について探った。

　イ．日本ライトハウス職業訓練部の先進的な取り組みをご紹介いただき、企業が求める人材や就職に必要なスキル・心構えなどを学び、京都における就労支援のあり方を考える機会とした。

　ウ．京都ジョブパークのご協力を得て2015年度から開催している同所の視覚障害者向け出張セミナーを今年度も開催した。講師は心理学に詳しい方であり、「楽に生きること」「とらわれない生き方」をキーワードにして行い、参加者から好評の声が寄せられた。

　エ．仕事サロンスタッフが自身のこれまでの歩みや現状について語る機会を設けた。その際、外部講師を招かないことで、参加者相互の思いを出せる時間を多くとることを重視した。

Ｃ．関係機関との連携に向けた取り組み

　ア．５月２０日、日盲連・公益社団法人NEXT VISIONの提携による「神戸発、視覚障害者雇用の未来を考えるフォーラム」が開催され、関係機関に呼び掛けて共に参加した。

　イ．６月２９日、行政機関と共に京都産業保険総合支援センターを訪問し、難病者の就労支援の現状などについて学んだ。

　ウ．９月１４日～１６日に神戸で開催された「第２７回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会」において、「目の見えない人・見えにくい人の仕事サロン」のこれまでの取り組みの成果についてポスター発表を行い、全国に発信した。なお、その内容については、理事メーリングリスト及び、２月の指導者研修会で報告した。

　エ．７月と３月に「京都三療関係団体連絡会」に出席し、受領委任制度・あはき訴訟等の現状の把握に努めた。また、京マ会再結成を控え、三療部との連携の在り方について検討した。

Ｄ．今後の課題

　ア．中途視覚障害者が継続して働ける仕組みづくりを進めるため、関係機関との連携の強化、新たな取り組み方の模索、情報提供の充実が重要である。

　イ．三療部・音楽部と話し合いを持つなどして、視覚障害者の就労の在り方についての総合的な検討が必要である。

Ｅ．会議

部会 ４回

「仕事サロン」企画会議 ２回

京都市障害者ピアサポート運営委員会

（旧・京都市障害者職業能力開発等支援事業所運営委員会）

　　　　　　　 １回

　（５）情報宣伝部

Ａ．点字京都発刊第７００号記念特集について

　ア．本会創立７０周年記念行事とあわせて特集記事を掲載した。

　イ．ニーズの聞き取りを行い検討し、短文で多彩な情報を掲載する記事「なあなあ聞いて 点京ツイート」を新設した。

Ｂ．京視協ホームページの運営について

　　点字京都、メールマガジン「色鉛筆」からの記事、女性部、職業部などとの連携により内容を充実させた。

Ｃ．メールマガジン「色鉛筆」の発行

　ア．ホームページの内容充実、新たな形態での障害当事者への働きかけ、市民啓発などを目的に、メールマガジンの定期発行を引き続き実施した。

　イ．さえずり会の協力による「さえずりジョッキー」デイジー版への収録という形態で、メールを利用していない会員向けの情報提供を引きつづき実施した。

　ウ．第２７回視覚障害リハビリテーション研究発表大会にて、ポスター発表を行った。

Ｄ．会議

　ア．部会　６月２０日実施。また随時Ｅメールを利用して行った。

　イ．点字京都編集委員会　３月１日実施

　ウ．メールマガジンの編集運営会議　基本的に週１回定期的に実施

Ｅ．今後の課題

　ア．点字京都については、より会員のニーズに即した情報提供ができるよう、内容面の議論を進めていきたい。

　イ．点字京都のテープ版の制作については、コピー用カセットテープの新規購入が困難になってきたことに加えて、現在保有する機器のメーカーによる保守も終了したため、その存続が一層困難になりつつある。可能な限り発行を続けながら、現実的な対応を議論し、テープ版利用者への今後の情報提供に対して、サポート体制の構築を進める必要がある。

　ウ．ホームページについては、一般市民や会員以外の視覚障害者に本会の活動を知らせる場であるというスタンスに立って、より一層の内容充実を図る。また、運営体制を強化する方策を引き続き議論する。

　エ．メールマガジンについては、より一層運営体制の強化を図る。

（６）市民啓発部

Ａ．概要

ア．市民に対して理解を得るための啓発活動および目的に合った研修会を開くことができた。今後も継続していくことが重要である。

イ．数年来取り組んできた講師の育成が徐々に実を結び、講演活動を行える講師が増えてきた。今後も派遣講師育成のための研修会を開催するとともに、講師のフォローについても検討していきたい。

ウ．今年も、梅小路公園で実施されているほほえみ広場に啓発ブースを設け（１０月２０日）、点字体験や動物将棋等を準備し、２８名の方に体験していただいた。

エ．例年どおり「あい・らぶ・ふぇあ」を担当し、実行委員会に部員２名と協力員１名を派遣した。

オ．かねてより、街中で援助をしていただいた際に感謝の気持ちを伝えられる媒体を作製して欲しいとの声があった。この声を受けて、「ありがとうカード」を作製し、希望者に配布することにした。

Ｂ． 実施事業

　ア．ＳＫＹセミナー　視覚障害者サポート講座
８月２１日　ガイドヘルパープレ講座　ハートピア京都
１０月４日　朗読ボランティアプレ講座　ハートピア京都

イ．音訳講習会　１０月１５日（月）～１１月５日（月）　全４回

京都ライトハウス　　講師　白波瀬　勲氏

ウ．派遣講師研修会　１１月１９日（月）　南部アイセンター

　エ．点字指導者研修会

２月２５日　南部会場　京都ライトハウス

　　　　　　３月１０日　北部会場　市民交流プラザふくちやま

Ｃ．会議

ア．京都視覚障害者ボランティア連絡会例会 ４回

イ．京都インクルーシブ教育を考えるシンポジウム会議 ６回

ウ．ほほえみ広場実行委員会 ３回

エ．部会 ６回

Ｄ．今後の課題

ア．視覚障害者サポート講座の受講生が、実際にボランティア活動をしていただけるような継続的なフォローと、育成等の取組みを行う。

イ．今年度の「派遣講師研修会」は、南部アイセンターで開催した。色々な方に講師になっていただけるよう、今後も京都ライトハウス以外の会場で開催する等の工夫をしていきたい。

ウ．「点字指導者研修会」の研修内容について、受講者が求めている情報を提供できる充実した研修となるよう、引き続き取り組む必要がある。

（７）生活環境改善部

　　Ａ．概要

ア．京都府警や当事者からの依頼を受け、音響信号機の音量調整の要請に対応した。

　イ．福知山市視覚障害者協会と共に駅構内の点字ブロックや設備等の点検活動を行った。また京都市内の点字ブロック等の点検活動も行った。

　ウ．近鉄京都線における駅員不在時間実施を受け、京都府交通政策課に本会としての考え方を伝え、府内の交通問題について今後協議していくことを確認した。また、駅員不在時間帯実施に対する要望書を近鉄京都駅に提出した。

　エ．投票所での職員対応、器具の点検、選挙広報の発送など、私達がより投票しやすい環境について京都府選挙管理委員会と懇談の場をもった。

　オ．京都市内各地域団体の会員と、警察署が主催する自転車マナーに対する啓発活動に参加した。

　カ．京都市内で開催された避難所運営訓練に参加し、視覚障害者の手引きや避難所での配慮などについて自治会の運営役員に伝えた。

　キ．京都市バスの行き先案内を示す方向幕が廃止になり電光掲示板に代わることを受け、見えやすさなどの意見を伝える見学会を開催した。

　ク．京都市バスで実施される前乗り・後降りについて交通局と懇談し、視覚障害者に対する配慮について要望した。

　　　ケ．京都市が主催する交通関係会議に委員を派遣した。

　　　コ．市内白杖安全デー実行委員会に委員を派遣した。

サ．京都市身体障害者団体連合会が主催する京都市交通局との意見交換会に委員を派遣した。

Ｂ．今後の課題

　ア．音響信号機のより有効な設置方法について本会の考えを京都府警に伝え、共に協議していくことが大切である。

　イ．災害時の対応において、避難所運営マニュアルに障害者の対応を明記していくことを要望していくとともに、地元での訓練などへの参加、地域の各関係機関との連携など私たちの声が反映されるよう積極的に活動していかなければならない。

　ウ．点字ブロックの敷設、日常生活用具などについての勉強会を開催し、諸問題に真摯に対応できる知識を持つよう努めたい。

　　Ｃ．会議

　　　　部会　５回

（８）文化部

　　Ａ．概要

　ア．今後、新しい事業を取り入れようということから、点字に関する行事が何かできないか模索していきたい。

　イ．「副音声による上映体験会」が定着し、ライトハウス以外の地域でも上映体験会を実施できるよう、より啓発に努めていきたい。

　ウ．手で触れる日展鑑賞会を今年度も「五感で楽しむ会」にて実施し、文化部としてはそれを応援した。今年は例年よりもゆっくりと作者と話ができた。この対話を重要視したい。

　エ．京都ライトハウスで「視覚障がい児・者競技用百人一首かるたセット」を作成し発売を開始した。これにより全国的に競技かるたが普及し、京都でも「かるたクラブ」の設立を要望する声が盛り上がりを見せている。この機会にクラブの設立を目指したいと考えている。

　　Ｂ．文化活動

　ア．副音声による上映体験会

　　　４月２２日 「ボクの妻と結婚してください」　参加者３５名

　　　７月１日 「湯を沸かすほどの熱い愛」　参加者５０名

　　　９月１６日 「ナミヤ雑貨店の奇蹟」　参加者４０名

　　　１１月２５日 「嘘八百」　参加者２０名

　　　１月１３日 「リメンバー・ミー」　参加者３５名。

　　（会場はいずれもライトハウス）

　イ．手で触れる日展鑑賞会への協力

　　　１２月２６日　みやこめっせ 地下展示場にて実施。視覚障害者１３名、付添者・作者・教育大学生など総勢５０名が参加。

Ｃ．会議

　ア．部会　　　　　　１回

　イ．各種打ち合わせ　８回

（９）スポーツ部

Ａ．概要

　ア．体育大会が今年度で第５０回を迎えた。これを機に、今後は参加者の層を更に広げるために、誰でも出場しやすくなるような種目の検討を進めたい。

　イ．以前から課題としている部としての後継者不足は、引き続き運営体制の見直しと構築が必要である。

Ｂ．会議

ア．日盲連スポーツ協議会代表者会議 １回

イ．日盲連近畿ブロックスポーツ部会 ２回

ウ．京都障害者スポーツ振興会代表者会議 １回

エ．部会 ４回

（10）経理部

Ａ．概要

ア．公益社団法人としての本会６会計事務処理について、仕訳、配分等が大変複雑となっているが、本年度も無事に終えることが出来た。

イ．同行援護事業の伸びが前年同様やや少ないが、助成金獲得の努力等もあり、少しの赤字で済ませることが出来た。

ウ．公認会計士による監査前のチェックを２回実施した。

Ｂ．会議

ア．監査会

２０１７年度決算に対する監査 ５月２５日　京都ライトハウス

２０１８年度中間監査 １１月２７日　京都ライトハウス

２０１８年度最終監査 ２０１９年５月２９日予定

イ．顧問税理士によるチェック １２回

ウ．行政折衝 ２回

エ．部会 ２回

（11）ＩＴ活用支援部

　　Ａ．概要

　ア．今年度は、iPhone講習会への講師派遣依頼に応え、部として推薦した講師を派遣した。

　イ．デイジー講習会及び指導者研修会について、今年度は、卓上型デイジー録音再生機プレクストークＰＴＲ３を使用する内容に変更し、実施した。

　ウ．視覚障害者へのパソコン指導に協力いただけるサポーターを必要としている地域があり、次年度は指導者研修会をより充実させていきたい。

　エ．引き続き、パソコンや視覚障害者用各種機器の指導にあたる講師の掘り起こしが必要である。

Ｂ．主な活動内容

　　京都市パソコン講習会等の講師調整を行ったほか、府内各地域で開講されたデイジー、iPhone等の講習会に講師を派遣した。

Ｃ．会議

　部会　１回

（12）事務局

Ａ．概要

ア．会員の高齢化や後継者不足等により、講座や親睦行事の開催などの活動が困難な地域団体が増加しており、特に京都市内においては、その傾向が顕著である。また、京都市においては、視覚障害者に対する案内等の個別発送の仕組みを取り入れることができていない。そのため、中途失明者巡回生活指導員が医療機関等と連携して相談活動を行う中で対象者の掘り起こしに努めてはいるものの、医療機関等に通院していない人、特に相談の希望はないが当事者同士の交流を求めている人、他府県からの転入により情報がまだ入手できていない人などには、本会についての情報が伝えられていない。今後、京都市の協力も得ながら、どのようにして視覚障害者本人に直接情報を届けるのか、検討する必要がある。

イ．地域団体には所属せず、本会のみに入会希望の会員も増え続けており、地域団体の意義を入会希望者にどのように伝えていくか、引き続き検討しなければならない。今年度、地域支援部・事業企画部などで議論が開始されたが、本会のみに所属する会員への地域団体からの情報提供の充実に努力する必要がある。また、地域支援部と協力し、地域団体のサポートをどのような形で行っていくのかについても引き続き検討が必要である。

Ｂ．他団体等との連携

ア．日盲連関係

第７１回全国盲人福祉大会、理事会、評議員会、指導者研修会、中央省庁交渉、同行援護事業所等連絡会、近畿ブロック協議会団体長会議、近畿ブロック協議会委員会等

イ．日身連関係

府身連正副会長会議、府身連及び市身連理事会・評議員会・総会等、市身連交通懇談会、政令指定都市身体障害者福祉団体連絡協議会等

ウ．京都府関係

障害者社会参加推進協議会、障害者施策推進協議会、心身障害者世帯府営住宅優先入居審査委員会等

エ．京都市関係

障害者施策推進審議会、障害者自立支援協議会、ユニバーサルデザイン審議会、「歩くまち・京都」推進会議、交通バリアフリー推進会議、ほほえみ広場実行委員会等

オ．京都府・市社会福祉協議会

評議員会、障害者団体長会議、障害福祉委員会等

カ．京都障害児者の生活と権利を守る連絡会

総会、常任委員会等

キ．施設・団体関係

共催事業に関する懇談会、京都ライトハウス理事会・評議員会、京都視覚障害者支援センター理事会・評議員会、関西盲導犬協会理事会・評議員会、丹後視力障害者福祉センター理事会・評議員会

Ｃ．記録・資料の作成

ア．理事会・総会の議事録作成と配付

イ．理事会及び正副会長会議の資料作成

ウ．決裁事項の処理

エ．文書の起案・発行

対外（甲）１６６号、対内（乙）６２号、その他

Ｄ．２０１９年３月３１日現在の会員数

正会員 １，０１５名

特別会員 ５名

賛助会員 ７５名

賛助団体 ４１団体

（13）三療部

Ａ．概要

　ア．あはき法１９条違憲訴訟裁判の傍聴については、我々視覚障害者の三療家のみならず、視覚障害者の今後の就業と雇用、ひいては生活を守るための活動ととらえ、裁判官に関心の高さを示すため取り組んできた。

　イ．保険会については今年度も取扱件数の減少傾向に歯止めがかからなかった。

　ウ．京都マラソンについては、京都府鍼灸マッサージ師会の呼びかけにより４名の会員がマッサージボランティアに参加した。

　エ．京都視覚障害者三療関係団体連絡会を開催した。

　オ．京都における視覚障害者三療家の問題点などを抽出し、情報の共有化を図った。

　カ．研修、学術活動については、北部地域での研修を含め５日開催した。

　キ．京都府あん摩マッサージ指圧師会（京マ会）準備委員会の設置が理事会で承認され、業団体としての再結成に向けて活動を開始した。

Ｂ．今後の取り組み

　ア．日本盲人会連合の中に「あはき協議会」が設置されており、京マ会が結成されても三療部は存続させる必要がある。

　イ．京マ会再結成後の三療部活動の主たる内容は、無資格者対策、あはき違憲訴訟、日盲連からの要請活動とする。

　ウ．研修、学術活動については、当面京マ会と協力して取り組む。

Ｃ．会議

ア．総会　　３月１７日　　京都ライトハウス

イ．運営委員会　　４回

ウ．保険審査委員会　　１２回

（14）音楽部

　　Ａ. 概要

　ア．第５６回全国邦楽演奏会を全員協力して成功させることができた。特に、３０年以上講師を務めてきた教室の協力が得られ、教室合同での演奏を２曲披露できたのは大きな成果であった。

　イ．例年同様に、演奏活動と講師派遣に取り組んだ。

　　Ｂ. 各種演奏活動

　ア．第５６回全国邦楽演奏会　　４月１４日　京都府民ホールアルティ

　イ．本会新年のつどい 　１月１０日　京都ライトハウス

　ウ．あい・らぶ・ふぇあ　　２月１４日・１５日　大丸京都店

　　Ｃ. 講座開設と講師派遣活動

　ア. 今年度も京都市内４教室において講座を開設し、音楽部より講師を派遣した。

　イ. 講座開設会場

　　ａ．京都アスニーアトリエ箏曲教室

　　ｂ．京都ライトハウス箏・三絃教室

　　ｃ．京都市障害者スポーツセンター箏サークル

　　ｄ．京都新聞文化センター箏曲教室

　　Ｄ．会議その他

　ア．第５７回日盲連音楽家協議会福祉大会　　４月１５日　アパホテル京都駅前

　イ．演奏会などの練習 ７回程度

　ウ．総会 ５月２４日・３月７日　京都ライトハウス

　エ．部会 ３回

　オ．日盲連音楽家協議会常任委員会　　３月１４日　神戸市福祉センター

　　Ｅ．今後の課題

　　　後継者がいない中で活動が困難になってきている。これまで取り組んできた教室も受講生が減りつつあり、継続の方法の検討とＰＲが課題である。

（15）高齢部

Ａ．概要

ア．今年度も仲間作りと各地域の情報交換を大切にし、活動した。

イ．高齢者福祉のつどいでは、京都市成年後見支援センターより講師を招いて成年後見制度について講演していただき、知識を深めた。また、落語や、クロマチックハーモニカとアコーディオンによるコンサートで、楽しい時間を過ごした。

ウ．地域交流研修会を長岡京市の「神足ふれあい町屋」にて行った。乙訓障害者事業協会の山田猛氏による「長岡京の文化と歴史よもやま話」の講演を聞き、オカリナグループの演奏を楽しんで有意義な交流ができた。

Ｂ．会議

ア．総会 ３月１５日　京都ライトハウス

イ．役員会 ４回

（16）女性部

　　Ａ．概要

　ア．視覚障害女性の社会参加・地位向上・お互いの触れ合いを目的に活動した。

　イ．外部団体との交流として、障害者権利条約の批准と完全実施を目指す京都実行委員会 女性部会の交流会に参加して、他の障害者との交わりを通し、お互いの障害についての理解を深める機会を持った。

　ウ．京都府・京都市委託の家庭生活訓練事業にも積極的に取り組むことができた

　エ．第６４回全国盲女性研修大会（島根県大会）では、「日頃差別を受けたことがありますか？感じたことがありますか？」というテーマで９人のレポーターからの発表を聞き、活発に話し合った。

　オ．来年度も、更に充実した活動が行えるように努力したい。

　　Ｂ．研修会

　　　今年度の府内合流研修会は、１０月３１日に綾部地域の担当で、綾部市保健福祉センターにて実施した。

　　Ｃ．その他の参加行事

　　　第２９回文化祭典において、各訓練教室の作品展示、お茶席等を行った。

　　Ｄ．会議

　　　ア．総会　　４月１２日(木)　京都ライトハウス

　　　イ．役員会　　４回　京都ライトハウス

　ウ．日盲連女性協議会代表者会議　第1回　９月１日　島根県

　　　　　　　　　　　　　　　　　第２回　３月２０日　東京都

　エ．日盲連近畿ブロック女性部連絡会議　　１月２５日　兵庫県

Ｅ．その他

　　　点字京都に行事案内などを投稿、日盲連女性協議会発行の会報「あかね」の点字版・デイジーＣＤ版等の各地域への配布を行った。

（17）青年部

　　Ａ．概要

　ア．青年部独自のメーリングリストを利用して、行事などの呼びかけや事務連絡、情報交換を積極的に行った。

　イ．２０１７年度に引き続き、山科区社会福祉協議会の「点字教室」へ講師を派遣した。

　ウ．奈良県で開催された全国盲青年研修大会への参加を通じて、近畿ブロック他府県との連携を深めた。

　エ．日盲連社会対策研修会を開催することにより、視覚障害に関する知見を得ることができた。

　オ．京視協事業への積極的な参加及び、呼びかけを通して、青年層への視覚障害者福祉の理解を進めた。

　カ．行事後毎回懇親会を企画することで、青年層の親睦を図った。

Ｂ．主催行事・会議等

　ア．総会　　４月２２日　京都ライトハウス

　イ．第６４会全国盲青年研修大会　　９月１６日～１７日　奈良県

　ウ．近畿ブロック青年部委員会　　６月１７日　京都ライトハウス
　　　　　　　　　　　　　　　２月１７日　和歌山県

　エ．交流会　　３回

Ｃ．その他

　ア．山科区社協主催点字講習会へ講師派遣　６月２３日・７月７日

　イ．執行部会の開催（必要に応じて開催）

　ウ．メーリングリストの運営、管理

　エ．日盲連青年協議会への代表派遣

（18）第５２回白杖安全デー実行委員会

第５２回白杖安全デー

「視覚障害者の交通安全を考える府・市民のつどい」

啓発活動　京都市内主要駅７か所

【集　会】

実施日　　１２月２３日

会　場　　京都ライトハウス

【テーマ】

誰もが安心して歩ける街・ＫＹＯから未来へ　～白い杖や盲導犬を使っている人に声をかけてください～

【主　催】

公益社団法人　京都府視覚障害者協会

社会福祉法人　京都ライトハウス

社会福祉法人　京都視覚障害者支援センター

公益財団法人　関西盲導犬協会

京都府立盲学校

京都府立視力障害者福祉センター

Ａ．概要

ア．「誰もが安心して歩ける福祉の街づくり」の実現を願う視覚障害者の立場から、幅広く一般府・市民に対して啓発活動を行うことで、外出時のマナーや意識の向上と、協力関係の確立を目指すことを目的にテーマを決定した。今年度は公共の駅や建物の中なども安心して歩ける場所になるよう、「路」を「街」に置き換えた。

イ．府・市民へ声を届けられるように、街頭啓発活動を強化して行った。「視覚障害者の安心安全な駅ホーム利用」についての訴えを行い、多くの方に聞いていただくことができた。今年度は京都市交通局の多大なご協力により、１０月～１２月初旬にかけて主要駅７か所で、市内で営業するすべての鉄道会社と共に啓発活動に取り組むことができた。各鉄道会社の制服を着た職員が参加してチラシを配っていただけることは、とても有意義であった。

１０月　２日　京福電鉄嵐山駅

１０月１１日　京阪三条駅

１０月２３日　叡山電鉄出町柳駅

１０月２９日　近鉄京都駅

１１月　９日　阪急桂駅

１１月１６日　ＪＲ京都駅

１２月　９日　地下鉄四条駅

ウ．集会前日の朝に、宣伝カーで京都市内を数時間走り、参加の呼びかけを行った。参加に繋げることは難しかったが、多くの市民に足を止めてもらい、見ていただくという意味では効果があった。

エ．今回の集会は、京都ライトハウスで１２月２３日に実施した。集会前に実施した主要駅７か所での啓発活動の内容報告や、録画した活動の様子を上映して、成果を発表した。また、当事者からの体験発表では、ロービジョンの立場から外出の際の思いや、見えにくくなって白杖を携帯する理由、最新機器をうまく利用して白杖歩行をされていることなど発表いただいた。

京都市交通局の方にご協力いただき、日頃利用する市バスや地下鉄に関するクイズを用意していただき大いに盛り上がった。

Ｂ．会議

実行委員会　　７回

その他、小委員会や打ち合わせなどを適宜行った。

Ｃ．白杖安全デー北部集会

実施日　　１０月２０日

会　場　　みやづ歴史の館

パレード　　宮津市内約５００メートル

テーマ　　誰もが安心して歩ける街・ＫＹＯから未来へ

午前中は、府内北部地域団体交流会を行った。宮津市教育委員会文化振興課担当者による北前船についての講演の後、「会員拡大と強化」をテーマに、福知山・綾部・舞鶴の３団体からの発表と質疑応答を行った。午後は、白杖安全デー府内北部集会を開催し、亀岡・南丹京丹波の２団体と丹後視力障害者福祉センターより「バリアフリーの安全歩行について」の発表及び報告があった。最後に決議文の採択等を行い、集会を終えた。その後、宮津おどり振興会による宮津おどりを鑑賞し、小学生の宮津マーチングバンドを先導に街頭啓発のパレードを行った。

Ｄ．白杖安全デー南部集会

実施日　　１０月７日

会　場　　木津川市役所

集会は、　雅楽の演奏・朗読と格調高いオープニングセレモニーのあと、３名の視覚障害者が、駅の安全対策や白杖の大切さ、施設利用における課題などの体験を発表した。後半は、木津警察署による講演の後、駅ホームでの安全対策、駅の無人化、災害対策など山積する課題の解決に向けて力を合わせて取り組むことを呼びかける決議文が満場一致で採択された。

（19）第４４回あい・らぶ・ふぇあ実行委員会

視覚障害者福祉啓発事業　第４４回あい・らぶ・ふぇあ

【テーマ】

見えない・見えにくいを知ろう！

【実施日】

２月１４日～１７日

【会　場】

大丸京都店６階イベントホール

【主　催】

公益社団法人　京都府視覚障害者協会

社会福祉法人　京都ライトハウス

社会福祉法人　京都視覚障害者支援センター

公益財団法人　関西盲導犬協会

Ａ．概要

ア．今年度は視覚障害者のことを一般の方々に楽しみながら知っていただくことをテーマに、子供でも楽しめる遊び「ＴＨＥ　ＤＯＴＳを探せ！」や、山本シュウさんと視覚障害当事者によるトークショー、桂福点さんのトークショーなどを行った。また、アイマスクをつけてお茶を飲む、点字を体験するなど様々な体験や展示の見学などができるように企画した。

イ．小学生絵画コンクールは、京都市内６校２３９点の応募作品があり、継続して出品していただいている学校があるなど、教育において視覚障害者の暮らしを知っていただく機会となっている。なお、入賞作品のほか、主催４団体からの特別賞を設けた。

ウ．点字をモチーフにしたキャラクターのＴＨＥ　ＤＯＴＳ「ウーくん」「ツナギちゃん」は、多くの方の興味をひくことができ、盛り上げ役としての役割を果たした。さらに、会場入口の盲導犬のＰＲ犬も多くの来場者の注目を集め、癒してくれる役割を担った。

Ｂ．会議等

実行委員会　　７回

その他、班会議、絵画審査委員会などを適宜行った。

（20）第５６回全国邦楽演奏会並びに第５７回日盲連音楽家協議会福祉大会実行委員会

Ａ．概要

京都では１９６４年以来５４年ぶりの開催となった。その中で本会７０周年記念事業の一つとして音楽部を中心に会全体で取り組んだことは意義深かった。

以下の内容で実施した。

ア．第５６回全国邦楽演奏会　　４月１４日　京都府民ホールアルティ

全国の視覚障害演奏家を中心とした演奏　　１０曲
京視協音楽部員を中心とした演奏　　５曲
音楽部員が講師を務めている教室の演奏　　２曲
（出演者・役員・ボランティア２００名、入場者５００名）

イ．日本盲人会連合結成７０周年記念「地歌箏曲検校墓参」　　４月１５日

八橋検校・八重崎検校・菊岡検校の墓参をし、先人の偉業に思いを寄せる。（参加者４７名）

京都ならではの企画で他府県の参加者に大変好評であった。

ウ．福祉大会　　４月１５日　アパホテル京都駅前（参加者約４０名）

Ｂ．実行委員会　　６回（うち５回は前年度に開催）

（21）会結成７０周年記念事業実行委員会

Ａ．今年度が会結成７０周年並びに法人認可６５周年の記念の年に当たることから、記念事業を実施した。

Ｂ．記念式典及び記念講演会

６月２４日にラボール京都で開催の定時総会に併せて、実施した。記念式典では、物故者黙祷に続いて、本会結成７０周年記念特別表彰等を行なった。記念講演会では、落語家の笑福亭晃瓶氏に楽しいお話とともに、落語「壺算」を演じていただいた。参加者２００名。

Ｃ．鳥居篤治郎先生頌徳碑探訪及び記念式典

９月１１日に、鳥居篤治郎先生の出身地である与謝野町で開催した。まず、野田川フォレストパークで頌徳碑を見学した後、会長挨拶に続き、鳥居先生と直接接したことのある代表２名による献花を行い、鳥居先生の思い出を披露していただいた。その後、与謝野町立生涯学習センター「知遊館」に移動し、鳥居篤治郎先生の紙芝居「盲人福祉の父　鳥居篤治郎」を製作された宮津市の森山道子氏による、この日初公開となる紙芝居の上演、京都府立盲学校の岸博実氏による、「ぼっちゃんの夢は、野田川発・世界水準」というテーマの記念講演をしていただいた。続いて、頌徳碑設置のための土地提供や今回の式典の会場使用に当たってご協力いただいた与謝野町と、頌徳碑設置以来清掃活動を毎年続けてこられた京都府視覚障害者協会与謝支部に対して、感謝状を贈呈し、ライトハウス主幹による鳥居賞・鳥居伊都賞受賞伝達式などを行い、閉会した。参加者２８０名。

Ｄ．記念出版として、結成５０周年以後の内容を中心に編集した「７０周年記念誌」及び「会員電話名簿」も作成中であり、２０１９年度前半には完成する予定である。